

足場組立標準作業手順書(先行手摺仕様)

株式会社 善

作業条件		評価の方法	
1.単位作業	足場組立作業	危険の「大きさ」と危険に遭遇する「頻度」を予測した評点、及び「評価点」と評価の方法	
2.保護具	保護帽・安全帯・ゴム手袋・安全靴・鉄心入り地下足袋・親綱	《A》危険の大きさ	5: 損失日数181日以上(死亡及び永久的に労働不能につながる災害) 4: 損失日数91日~180日(障害が残る災害) 3: 損失日数31日~90日(重傷) 2: 損失日数4日~30日(軽傷) 1: 損失日数4日以下(微傷)
3.安全設備	カラーコーン・コーンバー・積載荷重表示板・作業主任者表示板・手摺落下防止柵	《B》危険に遭遇する頻度	5: 危険に遭遇する可能性が極めて高い 4: 危険に遭遇する可能性が高い 3: 危険に遭遇する可能性がある 2: 危険に遭遇する可能性が低い 1: 危険に遭遇する可能性が極めて低い
4.使用工具	ハンマー・ラチェット・番線カッター・大ハンマー・水平器	《C》危険度の評価=(A)×(B)	××25~15(高い危険度) ×14~8(中程度の危険度) △7~5(低い危険度) ○4以下(軽微な危険度)
5.使用材料	クサビ緊結式足場部材		
6.作業員数	5名~8名		
7.必要資格	足場組み立て解体等作業主任者		

作業区分	手順	急所(成否・安全・やりやすく)	予測される危険	危険			危険度	危険に対する防止対策	注意点
				大きさ	頻度	評価			
準備作業	挨拶	現場内の施主様・管理者・他業者に挨拶する	不快感					気持ちの良い挨拶をする	全員でする
	1. 作業前ミーティングの実施	当日の作業内容、作業方法、危険を予測して作業手順を全員で確認する	作業に伴う危険を見逃して災害を起こす	5	5	25	××	危険に対する意識を持たせ、有効な防止策を事前にたてる 作業場所でのKY活動の実施	第三者の立ち入り禁止区域の全員周知徹底 作業手順の遵守
	2. 健康状態の確認	寝不足、二日酔い、その他体調不良での作業禁止	健康状態に不安のある作業員に高所作業をさせてケガをする	5	4	20	××	作業者の健康状態、持病、血圧等を考慮して適性配置する	健康診断のデータの把握する
	3. 保護具、服装の点検	服装 決められた服装か、汚れていないか	汚れていたら第三者に不快感を与える	2	3	6	△	常に清潔に保つ	指差し呼称を実施し確認する
		保護具 保護帽	落下物、転倒時に保護帽が破損してケガをする	4	3	12	×	目視点検しひび、亀裂等あれば使用しない。交換する	
		安全帯	ロープ、ベルトが切れて高所より落下してケガをする	5	3	15	××	目視点検しひび、亀裂等あれば使用しない。交換する	
		安全靴・鉄心入り地下足袋	材料を足に落としてケガをする	3	3	9	×	作業者同士確認する	
	4. 使用工具の点検	親綱	ロープが切れて高所より落下してケガをする	5	3	15	××	目視点検しひび、亀裂等あれば使用しない。交換する	
		落下防止ワイヤー付ハンマー	落下したときに人に当たる、物損事故を起こす	5	4	20	××	落下防止ワイヤーをセットしたハンマーを使用する	指差し呼称を実施し確認する
		落下防止ワイヤー付ラチェット	落下したときに人に当たる、物損事故を起こす	5	4	20	××	落下防止ワイヤーをセットしたラチェットを使用する	
		番線カッター							
		大ハンマー							
5. 有資格者の確認	足場組み立て等作業主任者	無資格者の誤った指示によりケガをさせる	3	3	9	×	法令で定められた資格者の指揮のもと作業させる	免許、技能講習、特別教育	
6. 作業区域、危険場所の確認	作業場所に段差がないか	段差により転倒しケガをする	3	3	9	×	全員に危険箇所を周知徹底する	作業前の敷地点検	
	危険区域に第三者はいないか 架空電線の確認	危険区域に第三者が立ち入りケガをする 足場に近く(1m以内)感電する	3 5	3 3	9 15	×	第三者に立ち入らせない 会社に報告し指示をおおき防護管設置後施工する	立ち入り禁止の周知徹底 防護管の確認	
本作業	1. 部材の荷卸し	トラックからの荷卸しの際に部材が落下する	荷崩れにより部材が落下し足に当たる	3	5	15	××	ロープを外す際の部材確認する	単独作業禁止
	2. 部材の搬入	部材を運搬する際に足元(転倒箇所等)や第三者に十分注意する	地面の段差、部材によりつまずいて転倒 重量物による腰痛	2 3	5 5	10 15	×	部材を散らばして置かない、足元に注意する 無理して持たない(20kg程度)	安全通路の確保・足元確認 荷揚げ姿勢を守る
		(雨の日は特に滑り易く危険な為特に注意)							
	3. 不良部材の確認	不良部材を除去する	不良部材による事故	5	1	5	△	不良部材を使用しない	目視で確認
	4. 足場設置位置の確認	足場計画図を基に設置位置の確認を行う (基準点の設定)		1	1	1	○		
	5. 敷盤・敷き板にジャッキベースを配置	ジャッキベースを敷盤・敷き板に固定し設置位置を平らに整地、転圧する	ジャッキベースの沈下による足場の傾き	3	3	9	×	地面を十分に転圧する	平らに転圧する
	6. 支柱を立てる	足場計画図を基に基準点より順次立てる	横架材で緊結されるまで不安定になる ので支柱が倒れる	2	4	8	×	横架材で緊結されるまで2名で作業し倒れないよう支える	単独作業禁止
7. 横架材で支柱を接続する (根がらみの設置)	支柱の最下段の緊結部を桁、妻方向とも接続する	支柱に横架材を打ち込む際に打ち込み不足で足場が揺れる 横架材のピッチは足場計画図を確認のうえ施工する	2	2	4	○	緊結部をしっかりと打ち込む	落下防止コード付ハンマー使用 水平器を使用してレベルを確実に合わせる	

作業区分	手順	急所(成否・安全やりやすく)	予測される危険	危険			危険度	危険に対する防止対策	注意点
				大きさ	頻度	評価			
本作業	◆上層部への組み立て								
	8. 支柱を組み上げる	根がらみ用支柱に上層用の支柱を組み上げる	支柱を連結する時にバランスを失って支柱を倒す	3	3	9	×	両手でバランスを保ち瞬時に連結する 足元の安定に注意する	支柱の抜け止めを確実に 作業床から2コマ以上上がるように組み上げる
	9. 支柱にブラケットを設置する	高さ2.3m以下に設置する	打ち込む時にハンマーを落とす	2	2	4	○	手元に注意する	落下防止コード付ハンマーを使用する
	10. 先行手摺を設置する	作業床から2コマ上にピンを入れ設置する くさびを打ち込む際、コノ字をプレートに当てて打ち込む	ピンを入れそこない先行手摺が落下する	2	3	6	△	ピンを丁寧に確実に入れる	先行手摺は必ず下層から取付ける 一側足場では使用しない
	11. 1層目の作業床を設置する	ブラケットに確実にフックをかける	作業床の両端に指を挟む フックにかけそこない足場板が落下する	2	4	8	×	手元に注意する	手元を良く見る
	12. 最下層に筋かいを設置する	全スパンに設置する 筋かいの向きに注意する(内柱がない箇所を下側にする)	設置の際に指を挟む	2	4	8	×	手元に注意する	手元を良く見る
	13. 昇降用階段を設置する	1層目が組み上がった1層目の作業床の高さに 合わせて階段を取り付ける 手摺を設置する(階段、開口部)	設置の際に指を挟む 墜落する	2	4	8	×	手元に注意する	手元を良く見る
	14. 昇降設備を利用して1層目上がる	支柱を使用して昇降しない	支柱を昇降して滑って落下する	5	5	25	×	安全帯使用し手摺を設置する 支柱を使って昇降しない	昇降は必ず昇降設備を使用する
	◆2層目の組み上げ	設置済の先行手摺のピンが浮いていないか確認する	先行手摺が外れ墜落する	5	3	15	×	ピンが1番下まで入った状態に修正する	くさびを打ち込む際、コノ字をプレートに当てて打ち込む
		設置済の先行手摺のくさびを再度確実に打ち込む	打ち込む時にハンマーを落とす	3	4	12	×	滑り止め手袋でしっかり握る	落下防止コード付ハンマーを使用する
		部材の仮置きは落下防止対策を取る	部材の落下または部材と共に墜落する	5	5	25	×	仮置き部材は安定させる	手摺立掛け・安全バッグを使用する
		昇降階段を使用するの部材荷揚げは重さ20kgまで	バランスを崩し墜落する	5	5	25	×	必要以上の部材を持って荷揚げしない	足元注意
		安全帯を設置済の先行手摺に掛けて作業する	墜落する	5	5	25	×	安全帯使用	足元注意・安全帯使用
	15. 支柱を組み上げる	上層用の支柱を組み上げる	支柱を連結する時バランスを失って支柱を倒す	3	3	9	×	両手でバランスを保ち瞬時に連結する 足元の安定に注意する	支柱の抜け止めを確実に 作業床から2コマ以上上がるように組み上げる
	16. 支柱にブラケットを設置する	1層目の作業床の高さから4コマ目に設置する	打ち込む時に手を打つ 打ち込む時にハンマーを落とす	2	2	4	○	手元に注意する	手元を良く見る
	17. 先行手摺を設置する	作業床から2コマ上にピンを入れ設置する くさびを打ち込む際、コノ字をプレートに当てて打ち込む	ピンを入れそこない先行手摺が落下する	2	3	6	△	ピンを丁寧に確実に入れる	先行手摺は必ず下層から取付ける 作業者以外は近付かない
	18. 2層目の作業床を設置する	ブラケットに確実にフックをかける	作業床の両端に指を挟む フックにかけそこない足場板が落下する	2	4	8	×	手元に注意する	手元を良く見る
	19. 昇降用階段を設置する	2層目の作業床の高さに合わせて階段を取り付ける 手摺を設置する(階段、開口部)	設置の際に指を挟む 打ち込む時にハンマーを落とす 墜落する	2	4	8	×	手元に注意する	手元を良く見る
	20. 昇降設備を利用して2層目上がる	支柱を使用して昇降しない	支柱を昇降して滑って落下する	5	5	25	×	安全帯使用 支柱を使って昇降しない	足元確認・安全帯使用 昇降は必ず昇降設備を使用する
	以下15～20を繰り返し上層へ組み上げる	2名で声を掛け合い作業する 他の作業者が離れる場合はお互い監視し合う	作業中の墜落 部材の落下 使用工具の落下	5	5	25	×	安全帯使用 手元に注意する	足元確認・安全帯使用 手元を良く見る・作業床上部材を置かない
	21. 屋根からの墜落防止措置	作業床の6コマ上がりに先行手摺を設置 作業床の4コマ上がりに落下防止棒を設置	ピンを入れそこない先行手摺が落下する ピンを入れそこない落下防止棒が落下する	2	3	6	△	ピンを丁寧に確実に入れる	作業者以外は近付かない 先行手摺の外側には設置しない ピンが確実に入っているかを指で確認する
	22. 火打ちの設置	足場の各コーナーから1.8m以上の位置に概ね 水平に設置する(支柱に設置する)	作業中の墜落 部材の落下 使用工具の落下	5	5	25	×	安全帯使用 手元に注意する	足元確認・安全帯使用 手元を良く見る・作業床上部材を置かない
	23. 壁つなぎ、控えの設置	2層3スパンごと(シートを張れば2層2スパンごと)に 壁つなぎもしくは圧縮材又は控えを設置する	作業中の墜落 部材の落下 使用工具の落下	5	5	25	×	安全帯使用 手元に注意する	足元確認・安全帯使用 手元を良く見る・作業床上部材を置かない
			4	4	16	×	滑り止め手袋でしっかり握る	落下防止コード付ハンマー・ラチェットを使用する	
			5	5	25	×	安全帯使用	足元確認・安全帯使用	
			5	5	25	×	安全帯使用	足元確認・安全帯使用	
			4	4	16	×	滑り止め手袋でしっかり握る	落下防止コード付ハンマーを使用する	
			5	5	25	×	安全帯使用	足元確認・安全帯使用	
			5	5	25	×	安全帯使用	足元確認・安全帯使用	
			4	4	16	×	滑り止め手袋でしっかり握る	落下防止コード付ハンマーを使用する	

作業区分	手順	急所(成否・安全やりやすく)	予測される危険	危険			危険度	危険に対する防止対策	注意点
				大きさ	頻度	評価			
本作業	★ 各種表示	足場組み立て等作業主任者名・作業主任者の職務 最大積載表示を見やすい場所に掲示する							
	★ 組み立て後の確認	脚部、緊結部、開口部、足場端部確認	使用工具の落下 足場移動中の墜落	4 5	4 5	16 25	× × × ×	滑り止め手袋でしっかり握る 安全帯使用	落下防止コード付ハンマー・ラチェットを使用する 足元確認・安全帯使用
後始末作業 (組立)	1. 残材の整理	足場上に残材は残さない	足場上の残材が落下してケガをする、物損事故を起こす	5	4	20	× ×	最終点検時に確認する	全員で点検する
	2. 搬出、トラックへの積み込み	搬出の時に足元に注意する トラック積み込み	つまずいて転倒しケガをする	2	4	8	×	足元を良く確認して搬出する	足元確認する
			荷台から転落してケガをする	3	3	9	×	トラック上の整理整頓、トラック用昇降階段を使用する	足元の確認、決められた設備の使用
			荷崩れによりケガをする	3	3	9	×	荷が崩れないように支柱の荷崩れ防止金具を使用する	しっかり梱包する、決められた用具を使用する
	3. 工具の片付け								
	4. 清掃	現場内、前面道路、近隣の清掃	施主様、管理者、近隣からのクレームになる						全員でする
5. 自分達のゴミは持ち帰る	番線くず、弁当くず、空き缶類の持ち帰り	施主様、管理者、他の業者からクレームになる						全員でする	
6. 挨拶	現場内の関係者全員に挨拶して現場を離れる	他の業者から不信感を抱かれる					気持ち良く挨拶をする	全員でする	

足場解体標準作業手順書(先行手摺仕様)

株式会社 善

作業条件		評価の方法	
1.単位作業	足場解体作業	危険の「大きさ」と危険に遭遇する「頻度」を予測した評点、及び「評価点」と評価の方法	
2.保護具	保護帽・安全帯・ゴム手袋・安全靴・鉄心入り地下足袋・親綱	《A》危険の大きさ	5: 損失日数181日以上(死亡及び永久的に労働不能につながる災害) 4: 損失日数91日~180日(障害が残る災害) 3: 損失日数31日~90日(重傷) 2: 損失日数4日~30日(軽傷) 1: 損失日数4日以下(微傷)
3.安全設備	カラーコーン・コーンバー・積載荷重表示板・作業主任者表示板・手摺落下防止枠	《B》危険に遭遇する頻度	5: 危険に遭遇する可能性が極めて高い 4: 危険に遭遇する可能性が高い 3: 危険に遭遇する可能性がある 2: 危険に遭遇する可能性が低い 1: 危険に遭遇する可能性が極めて低い
4.使用工具	ハンマー・ラチェット・番線カッター・大ハンマー	《C》危険度の評価=(A)×(B)	××25~15(高い危険度) ×14~8(中程度の危険度) △7~5(低い危険度) ○4以下(軽微な危険度)
5.使用材料	クサビ緊結式足場部材		
6.作業員数	2名~3名		
7.必要資格	足場組み立て解体等作業主任者		

作業区分	手順	急所(成否・安全・やりやすく)	予測される危険	危険			危険度	危険に対する防止対策	注意点
				大きさ	頻度	評価			
準備作業	挨拶	現場内の施主様・管理者・他業者に挨拶する	不快感					全員で気持ちの良い挨拶をする	全員でする
	1. 作業前ミーティングの実施	当日の作業内容、作業方法、危険を予測して作業手順を全員で確認する	作業に伴う危険を見逃して災害を起こす	5	5	25	××	危険に対する意識を持たせ、有効な防止策を事前にたてる 作業場所でのKY活動の実施	第三者の立ち入り禁止区域の全員周知徹底 作業手順の遵守
	2. 健康状態の確認	寝不足、二日酔い、その他体調不良での作業禁止	健康状態に不安のある作業員に高所作業をさせてケガをする	5	4	20	××	作業者の健康状態、持病、血圧等を考慮して適性配置する	健康診断のデータの把握する
	3. 保護具、服装の点検	服装 決められた服装か、汚れていないか	汚れていたら第三者に不快感を与える	2	3	6	△	常に清潔に保つ	指差し呼称を実施し確認する
		保護具 保護帽	落下物、転倒時に保護帽が破損してケガをする	4	3	12	×	目視点検しひび、亀裂等あれば使用しない。交換する	
		安全帯	ロープ、ベルトが切れて高所より落下してケガをする	5	3	15	××	目視点検しひび、亀裂等あれば使用しない。交換する	
		安全靴・鉄心入り地下足袋	材料を足に落としてケガをする	3	3	9	×	作業者同士確認する	
	4. 使用工具の点検	親綱	ロープが切れて高所より落下してケガをする	5	3	15	××	目視点検しひび、亀裂等あれば使用しない。交換する	
		落下防止ワイヤー付ハンマー	落下したときに人に当たる、物損事故を起こす	5	4	20	××	落下防止ワイヤーをセットしたハンマーを使用する	指差し呼称を実施し確認する
		落下防止ワイヤー付ラチェット	落下したときに人に当たる、物損事故を起こす	5	4	20	××	落下防止ワイヤーをセットしたラチェットを使用する	
		番線カッター 大ハンマー							
	5. 有資格者の確認	足場組み立て等作業主任者	無資格者の誤った指示によりケガをさせる	3	3	9	×	法令で定められた資格者の指揮のもと作業させる	免許、技能講習、特別教育
6. 作業区域、危険場所の確認	作業場所に段差がないか	段差により転倒しケガをする	3	3	9	×	全員に危険箇所を周知徹底する	作業前の敷地点検	
	危険区域に第三者はいないか 架空電線の確認	危険区域に第三者が立ち入りケガをする 足場に近く(1m以内)感電する	3 5	3 3	9 15	×	第三者に立ち入らせない 会社に報告し指示をおおき防護管設置後施工する	立ち入り禁止の周知徹底 防護管の確認	
本作業	1. 解体前点検をする	建物仕上がり面に傷がないか	壁等に傷がある場合、報告を怠れば疑われる	3	2	6	△	傷があれば写真を撮り、会社に報告する	即時の報告、連絡
		壁つなぎ、根絡み、手摺り等の点検	根がらみ等が外されていたら解体中に足場が倒れる					組立時の状況に復旧する	安全作業状態に復旧し作業する
		足場上に資材等がないか	足場上に資材等があれば作業床を外した際に資材が人に当たる					点検中に転落する	足場上に物を置いていないか確認する
		先行手摺のくさび・ピンの状態は良いか	先行手摺が外れ落下する					くさび・ピンの状態を確認する	解体作業開始前に確認する
	2. 火打ちの解体	出来るだけ屋根上で作業する	作業中の壁落	5	5	25	××	安全帯を使用する	安全帯は腰から上に掛ける
	3. 落下防止枠の解体	最上層の作業床上で作業する	部材を落とす	2	3	6	△	手元に注意する	上下作業禁止
	4. 落下防止先行手摺の解体	最上層の作業床上で作業する	部材を落とす	2	3	6	△	手元に注意する	上下作業禁止
			外す時先行手摺を落とし建物に傷つける	5	5	25	××	必ず手摺を片手で支えて打ち外す	手元注意
			工具を落とし建物に傷つける、工具が落下し人に当たる	5	4	20	××	工具に落下防止ワイヤーをつける	手元注意
	★1層下に降りる								
	5. 昇降設備を利用する	支柱を使用して昇降しない	支柱を昇降して滑って落下する	5	5	25	××	支柱を使って昇降しない	昇降は必ず昇降設備を使用する
	6. 部材の荷卸しを行う	声を掛け合い手渡しを行う	荷卸し時バランスを崩し墜落する	5	5	25	××	必要以上の部材を持たない	部材は投下しない
	7. 作業床の解体	上層の作業床を外す	外しそこない部材が落下する	5	4	20	×	手元に注意する	手元を良く見る
	8. 先行手摺の解体	上層の先行手摺を外す	指を挟む	2	3	6	△	手袋着用	先行手摺は必ず下層から取り外す
			先行手摺を落とす	2	3	6	△	手元に注意する	上下作業禁止
9. ブラケットの解体	ブラケットを外す	工具を落とし建物に傷つける、工具が落下し人に当たる	5	4	20	××	工具に落下防止ワイヤーをつける	手元注意	

作業区分	手順	急所(成否・安全・やりやすく)	予測される危険	危険			危険度	危険に対する防止対策	注意点		
				大きさ	頻度	評価					
	★次層の解体を行う										
本作業	10. 昇降設備を利用する	支柱を使用して昇降しない	支柱を昇降して滑って落下する	5	5	25	××	支柱を使って昇降しない	昇降は必ず昇降設備を使用する		
	11. 部材の荷卸しを行う	声を掛け合い手渡しで行う	荷卸し時バランスを崩し墜落する	5	5	25	××	必要以上の部材を持たない	部材は投下しない		
	12. 作業床の解体	上層の作業床を外す	外しそこない部材が落下する	5	4	20	××	手元に注意する	手元を良く見る		
	13. 先行手摺の解体	上層の先行手摺を外す	指を挟む		2	3	6	××	手袋着用	先行手摺は必ず下層から取り外す	
			先行手摺を落とす		2	3	6	△	手元に注意する	上下作業禁止	
	14. ブラケットの解体	ブラケットを外す	工具を落とし建物を傷つける、工具が落下し人に当たる	5	4	20	××	工具に落下防止ワイヤーをつける	手元注意		
	以下10～14を繰り返し解体を行う	支柱の連結部があれば順次解体する	支柱を抜いたときにバランスを崩し建物に接触する		5	5	25	××	2人作業	声かけ作業、手元注意	
			墜落、工具部材の落下により建物に傷つけ、人に当たる						手摺落下防止柵、安全バッグ使用		
									工具落下防止ワイヤーつける		
	15. 最下層筋かいの解体		筋かいを外したときに誤って人に当たる		3	3	9	×	必ず2人で作業し1人が支えて1人が外す	手元注意	
	16. 根がらみの解体		根がらみを外したときに支柱が倒れ建物に傷つける		3	3	9	×	必ず2人で作業し1人が支えて1人が打ち外す	仕上がり壁に注意する	
	17. 最後の支柱を解体する		支柱を抜いたときにジャッキベースが倒れ足に当たる		3	3	9	×	足でジャッキベースを固定する	足元注意	
	18. 付帯設備の解体										
	壁つなぎの解体	壁つなぎの解体は可能な限り各層の解体最終作業とする	墜落、工具部材の落下により建物に傷つけ、人に当たる		3	3	9	×	必ず2人で作業し片側を1人が支えて1人が打ち外す	手元注意	
	昇降設備の解体	昇降設備の解体は各層の最終作業とする	墜落、工具部材の落下により建物に傷つけ、人に当たる		3	3	9	×	必ず昇降設備を使って昇降する	昇降設備を先に解体して支柱を伝い降りない	
	19. 部材の搬出	各部材をトラックの積み込みを考慮して搬出する	長尺部材を搬出のときに建物、人に当てる		5	5	25	××	周囲に気配りし慎重に搬出する	手元、足元注意	
	20. トラックに積荷造りをする	長尺ものを下に積み込みフラットに積み上げる	走行中に荷崩れを起こして事故になる		5	3	15	×	小さな部材、滑りやすい部材は必ず結束する	荷造りロープのゆるみを点検する	
	21. 最終点検	建物の仕上げ面の傷、汚れを確認点検する	傷、汚れ等でクレームになる		4	3	12	×	現場を離れる前に必ず確認する	必ず会社に報告を入れる	
	後始末作業 (解体)	1. 解体部の確認	躯体にキズなどついていないかチェックする	施主様からのクレームになる						全員でチェックする、キズ等あれば会社に報告する	
		2. 残材の整理	運搬の時に足元に注意する	残材につまずいて転倒する	3	5	15	××	足元注意、整理整頓、安全通路の確保	整理整頓	
		3. 搬出、トラックへの積み込み	搬出の時に足元に注意する	つまずいて転倒しケガをする		3	5	15	××	足元注意、安全通路の確保	整理整頓
材料を多く持たない				材料を多く持ち腰痛になる		3	4	12	×	一度に材料を持ちすぎない	
トラック積み込み				荷台から転落してケガをする		4	4	16	××	荷台から飛び降りない、トラック昇降用階段使用	決められた用具を使用する
			荷崩れによりケガをする		4	4	16	××	荷崩れ防止金具、梱包用番線等でしっかり固定する	しっかり梱包する、決められた用具を使用する	
4. 清掃		現場内・前道路・近隣の清掃	施主様、管理者、近隣からのクレームになる						全員でする		
5. 自分達のゴミは持ち帰る	番線くず、弁当くず、空き缶、シートひも等の持ち帰り	施主様、管理者、他の業者からクレームになる						全員でする			
6. 挨拶	現場内の関係者全員に挨拶して現場を離れる	不快感を抱かれる						気持ち良く挨拶をする	全員でする		

足場解体標準作業手順書(先行手摺仕様)

作業条件		評価の方法	
1.単位作業	足場解体作業	危険の「大きさ」と危険に遭遇する「頻度」を予測した評点、及び「評価点」と評価の方法	
2.保護具	保護帽・フルハーネス2丁掛け安全带・ゴム手袋・革手袋・安全靴・親綱	《A》危険の大きさ	5: 損失日数181日以上(死亡及び永久的に労働不能につながる災害) 4: 損失日数91日~180日(障害が残る災害)
3.安全設備	カラーコーン・コーンバー・積載荷重表示板・作業主任者表示板	3: 損失日数31日~90日(重傷) 2: 損失日数4日~30日(軽傷) 1: 損失日数4日以下(微傷)	
4.使用工具	ハンマー・ラチェット・番線カッター	《B》危険に遭遇する頻度	5: 危険に遭遇する可能性が極めて高い 4: 危険に遭遇する可能性が高い 3: 危険に遭遇する可能性がある 2: 危険に遭遇する可能性が低い 1: 危険に遭遇する可能性が極めて低い
5.使用材料	クサビ緊結式足場部材	《C》危険度の評価=(A)×(B)	××25~15(高い危険度) ×14~8(中程度の危険度) △7~5(低い危険度) ○4以下(軽微な危険度)
6.作業員数	7名~10名		
7.必要資格	足場組み立て解体等作業主任者、玉掛		

作業区分	手順	急所(成否・安全・やりやすく)	予測される危険	危険			危険度	危険に対する防止対策	注意点
				大きさ	頻度	評価			
準備作業	挨拶	現場内の施主様・管理者・他業者に挨拶する	不快感					全員で気持ちの良い挨拶をする	全員でする
	1. 作業前ミーティングの実施	当日の作業内容、作業方法、危険を予測して作業手順を現地にて全員で確認する	作業に伴う危険を見逃して災害を起こす	5	5	25	××	危険に対する意識を持たせ、有効な防止策を事前にたてる 作業場所でのKY活動の実施	第三者の立ち入り禁止区域の全員周知徹底 作業手順の遵守
	2. 健康状態の確認	寝不足、二日酔い、その他体調不良での作業禁止	健康状態に不安のある作業員に高所作業をさせてケガをする	5	4	20	××	作業者の健康状態、持病、血圧等を考慮して適性配置する	健康診断のデータの把握する
	3. 保護具、服装の点検	服装 決められた服装か、汚れていないか	汚れていたら第三者に不快感を与える	2	3	6	△	常に清潔に保つ	指差し呼称を実施し確認する
		保護具 保護帽	落下物、転倒時に保護帽が破損してケガをする	4	3	12	×	目視点検しひび、亀裂等あれば使用しない。交換する	
		フルハーネス2丁掛 安全带	ロープ、ベルトが切れて高所より落下してケガをする	5	3	15	××	目視点検しひび、亀裂等あれば使用しない。交換する	
		安全靴	材料を足に落としてケガをする	3	3	9	×	作業者同士確認する	
	4. 使用工具の点検	親綱	ロープが切れて高所より落下してケガをする	5	3	15	××	目視点検しひび、亀裂等あれば使用しない。交換する	指差し呼称を実施し確認する
		落下防止ワイヤー付ハンマー	落下したときに人に当たる、物損事故を起こす	5	4	20	××	落下防止ワイヤーをセットしたハンマーを使用する	
		落下防止ワイヤー付ラチェット 番線カッター	落下したときに人に当たる、物損事故を起こす	5	4	20	××	落下防止ワイヤーをセットしたラチェットを使用する	
5. 有資格者の確認	足場組み立て等作業主任者・玉掛	第三者、他職との接触災害	3	3	9	×	区画を明確にする。	立ち入り禁止の周知徹底	
6. 立ち入り禁止区画の設置	カラーコーン、親綱、看板を用いて明確に区画し、第三者、他職の立ち入りによる接触災害を防ぐ。						前日の打ち合わせ、朝礼等で立ち入り禁止範囲を周知する。	作業前の確認	
							第三者に立ち入らせない	立ち入り禁止区画確認後作業を開始する	
本作業	1. 解体前点検をする	建物仕上がり面に傷がないか	壁等に傷がある場合、報告を怠れば疑われる	3	2	6	△	傷があれば写真を撮り、会社に報告する	即時の報告、連絡
		壁つなぎ、根絡み、手摺り、ジャッキベースの緩み等の点検	根がらみ等が外されていたら解体中に足場が倒れる					組立時の状況に復旧する	安全作業状態に復旧し作業する
		足場上に資材等がないか	足場上に資材等があれば作業床を外した際に資材が人に当たる					点検中に転落する	足場上に物を置いていないか確認する
		先行手摺のくさび・ピンの状態は良いか	先行手摺が外れ落下する					くさび・ピンの状態を確認する	解体作業開始前に確認する
	2. メッシュシート解体	資材荷降ろし時にスリッパを各層に作業員を配置するため、シートは先行ですべて解体する。	シート先行解体による、資材工具等の落下災害	3	3	9	×	足場上の不要材等の確認を事前に行う	解体作業開始前に確認する
	3. 親綱の設置	フルハーネス2丁掛け安全带を先行手摺に掛け設置する	親綱設置位置に十分な強度がなく、設置位置が破損し墜落する。	3	3	9	×	親綱は強固な支柱に設置する。	取り付け状況を確認する。親綱は5スパン以内に設置する
	4. 層間ネットの解体	フルハーネス2丁掛け安全带を親綱に掛け作業する	層間ネット上に残された資材等が落下する。	2	3	6	△	事前に層間ネット上を確認し解体する。	上下作業禁止
	★資材荷降ろし	上下作業にならないようスリッパを各層に人員を配置し、手摺を資材荷降ろしとする	資材手渡し時、手元が滑り資材が落下する	5	4	20	××	作業員同士声を掛け合い作業する。上下作業をしない。	資材荷降ろしは部材1つ解体後すぐに下ろし、足場上に資材の設置をしない。
	5. 壁つなぎの解体	フルハーネス2丁掛け安全带を親綱に掛け作業する	壁つなぎ解体後足場が倒壊する	5	3	15	××	1層下の壁つなぎを確認後解体する。	自立3層以上の状態を作らない。
	6. 布材(手摺材)の解体	フルハーネス2丁掛け安全带を親綱に掛け作業する	工具、資材を落とし建物に傷つける。工具、資材が落下し人に当たる	5	4	20	××	工具に落下防止ワイヤーをつける。声を掛け合い確実に手渡しをする	上下作業にならないようスリッパを各層に人員を配置し資材荷降ろしをする
	7. 支柱の解体	フルハーネス2丁掛け安全带を親綱に掛け作業する	長尺物支柱を抜く際バランスを崩して支柱が落下する	5	3	15	××	作業床を確認し無理な体制で作業しない	上下作業にならないようスリッパを各層に人員を配置し資材荷降ろしをする
	8. 下段に移動	昇降階段を使用し下段に移動する	支柱、手摺材を使用して昇降しバランスを崩して転落、墜落する	5	5	25	×	昇降設備を使って移動できるよう解体範囲の計画を事前に行う	昇降は必ず昇降設備を使用する
9. 親綱の盛替え	フルハーネス2丁掛け安全带を布材に掛け設置する	親綱設置位置に十分な強度がなく、設置位置が破損し墜落する。	3	3	9	×	親綱は強固な支柱に設置する。	取り付け状況を確認する。親綱は5スパン以内に設置する	
7. 踏板、昇降の解体	フルハーネス2丁掛け安全带を親綱に掛け作業する	工具、資材を落とし建物に傷つける。工具、資材が落下し人に当たる	5	4	20	××	工具に落下防止ワイヤーをつける。声を掛け合い確実に手渡しをする	上下作業にならないようスリッパを各層に人員を配置し資材荷降ろしをする	
8. 先行手摺の盛替え	フルハーネス2丁掛け安全带を親綱に掛け作業する	工具、資材を落とし建物に傷つける。工具、資材が落下し人に当たる	5	4	20	××	工具に落下防止ワイヤーをつける。声を掛け合い確実に手渡しをする	上下作業にならないようスリッパを各層に人員を配置し資材荷降ろしをする	
9. 上記4~7の繰り返し作業	フルハーネス2丁掛け安全带を親綱に掛け作業する	作業の慣れによる近道行動による災害	5	3	15	××	作業手順を周知、遵守し作業する	作業員同士声を掛け合い作業する	

作業区分	手順	急所(成否・安全・やりやすく)	予測される危険	危険			危険度	危険に対する防止対策	注意点
				大きさ	頻度	評価			
資材運搬、搬出	1. 資材運搬集積	事前に計画された搬出経路にて資材運搬、集積をする	長尺物運搬時、第三者、他職、仕上げ物と接触する	3	3	9	×	立入禁止区画確認後資材の運搬をする。周囲を確認し作業する	事前に作業範囲、搬出経路を計画、周知する
	2. 資材揚重、積み込み	集積された資材を、ユニッククレーンにて揚重し積み込む。	無資格作業によるクレーンの転倒	5	3	15	×	クレーン作業は有資格者の中から決められた作業員によって作業する	事前に作業員の適正配置を決める
		玉掛は決められた作業員によって行う	無資格作業による吊り荷の落下、挟まれ	5	3	15	×	玉掛作業は有資格者の中から決められた作業員によって作業する	事前に作業員の適正配置を決める
		親綱設置済みのトラックを使用する。 フルハーネス2丁掛け安全帯を親綱に掛け作業する	吊り具の不備による吊り荷の落下、挟まれ	5	3	15	×	始業前点検を行い、決められた吊り具を使用する	
後始末作業 (解体)	1. 解体部の確認	躯体にキズなどついていないかチェックする	施主様からのクレームになる						全員でチェックする、キズ等あれば元請け様に報告する
	1. 残材、ゴミ等の確認	運搬の時に足元に注意する	残材につまずいて転倒する	3	5	15	×	足元注意、整理整頓、安全通路の確保	整理整頓
	4. 清掃	現場内・前面道路・近隣の清掃	施主様、管理者、近隣からのクレームになる						全員でする
	5. 自分達のゴミは持ち帰る	番線くず、弁当くず、空き缶、シートひも等の持ち帰り	施主様、管理者、他の業者からクレームになる						全員でする
	6. 挨拶	現場内の関係者全員に挨拶して現場を離れる	不信感を抱かれる					気持ち良く挨拶をする	全員でする